

3つの耳

2024.4.15 校長 西谷 秀幸

新しい学年になって最初の児童朝会です。校長先生は、しっかりと準備して皆さんに話をしますから、皆さんもしっかりと聴きましょう。そして、校長先生に会ったときは、感想を聞かせてくれると嬉しいです。

さて、人間には、口は1つしかありませんが、耳は2つあります。これはお話をすることも大切ですが、それ以上に聴くことが大切ですよ…ということで、神様が耳を2つにしてくれたのではないかと思っています。

この耳の使い方ですが、人によって大きく3つに分けられるそうです。

1つめは、「鉄砲耳」です。この耳は鉄砲の弾のように、「聞いたことが右から左へとすぐに抜けてしまう耳」です。家の人の話、担任の先生の話、そして、今、校長先生が話している話などを「うん、うん」とうなずきながら聞いていても、話が終わると鉄砲の弾のように全部抜けてしまっていて、何にも覚えていない耳です。

2つめは「ざる耳」です。ざるは、野菜など洗うときに使いますね。ざるで洗うと、野菜はそのまま残りますが、水は流れてしまいます。

このように、「人の話を聞いたときには、だいたいのことを覚えてはいるものの、細かいことは覚えていなく、そして、時間がたつと水が流れ出てしまうように忘れてしまう耳」…そんな、耳を「ざる耳」と言います。

3つめは「財布耳」です。お財布というのは、お金を大切にしまっておく物だから、落したり、なくしたりしたら大変です。そして、お財布は必要なときにはすぐに取り出して使えるようにしておかなくてはなりません。

このお財布のように、「家の人や先生から言われたことをしっかりと頭の中にしまっておき、必要なときにそれを思い出して上手に使える耳」…これを「財布耳」と言います。

この「鉄砲耳」「ざる耳」「財布耳」…、この3つの耳の中で、一番良い耳はどれでしょうか。もうわかりますね。では、皆さんの今の耳は、一体どれでしょうか。

始業式の日、「話は、目と耳と心で聴こう」とお話ししましたね。目と耳と心で聴くことで、皆さんの耳が、「鉄砲耳」や「ざる耳」ではなく、「財布耳」になるような1年間にしましょう。

これで朝会のお話を終わります。

(裏面に「先生方へ」があります)

〈先生方へ〉

始業式・入学式をはじめ、第1週、お疲れさまでした。もう何週間も過ぎた気分ですが、まだ2週間目に入ったばかりです。年度の始まりで、あれもなければこれもしなくてはという状態だとは思いますが、焦らず、1つずつクリアしていきましょう。

なお、今週は「生活規律」と「学習規律」の確立を最重点にすると良いでしょう。そして、「朝の会・給食・帰りの会」の3つを丁寧に指導することが大切です。朝の会・帰りの会で、時間が長くなるのはNGです。短時間でテンポ良く進めていくと、生活規律の確立がスムーズに確率していきます。心掛けてください。

また、先週は2・3年生の保護者会、お疲れさまでした。今週も1・4年生、5・6年生の保護者会がありますので、よろしくお願ひします。保護者会については私も担任時代にいろいろと悩みました。仕事を休んで出席して下さる方も多々いる中、資料を読んで伝えるだけだと出席率が低下していきます。

保護者会は、保護者同士の横のつながりを作ることも大きな目的の1つです。主幹教諭の梅木先生が、以前、成丘小の若手研で「『子供の話』ではなく、『自分の話』をさせるようにすると保護者同士がお互いの悩みを相談し合えるようになり有効である」こと、「家庭での子供の様子を一番良く知っているのは保護者」だが、「集団（学校）での子供の様子を一番知っているのは教員（担任）である」ことを伝えると良いとアドバイスしていました。その2つの話がとても印象的だったので、梅木先生が板五小に異動してからも、私は毎年、自校で伝えるようにしていました。4月は、伝達事項や役員決めなどで時間の余裕がないとは思いますが、今後、可能な限り、ぜひ工夫をしてみてください。

なお、最初に自己紹介をする際は「もし1日が25時間だったとしたら、その1時間で何をするか」ということを付け加えてもらうのも良いかと思ひます。（ただし、「寝る」だけはNGです。ほとんどの人が「寝る」と答えてしまいますから…。）

ちなみに、この質問をしてみると多くが「自分の趣味」か「家族との触れ合い」について答える傾向があります。次に「家事」でしょうか。ほんの希に「仕事」について答える人もいますようですが…。参考にしてください。

さて、話をしっかり「聴く」ということは、生活の基本です。学習する上でとても大切な約束の1つでもあります。これができないと、生活はもちろん学習が積み重なっていきません。

私は担任時代に、「聴く」という漢字には、「耳」「目（横向きを縦にする）」「心」の3つが含まれているから、「話は、目と耳と心で聴こう（「聞こう」ではなく「聴こう」）ということをして繰り返して伝えてきました。そこで、「聴く」という基本を徹底させるために、1回目の児童朝会で、今回の話をすることにしました。

今回の話は有名で、むかしは「きんちゃく耳」と言っていたそうです。「きんちゃく（巾着）」では、今の子供たちは何のことだか分からないかと思うので、財布と言ひ換えてあります。1年生には少し難しい内容かもしれませんが、各学級で、「目と耳と心」で「聴く」ことの大切さを発達段階に応じて補足していただければ幸いです。

また、今週末は、1回目の土曜授業（学校公開）です。最初の学校公開ということもあり、新1年生の保護者だけでなく、たくさんの方が訪れると思ひれます。見方を変えれば、自分の授業や学級経営をアピールする絶好の機会でもあります。「内容」「方法」「変容（向上）」の3つの視点で楽しい授業を計画してください。教師の姿勢、子供たちの様子から、この公開を機に多くの保護者を引きつけ、多くの方をクラスや担任、そして板五小のサポーターにできるように、よろしくお願ひします。

新学期は、頭・体・心のすべてがきついと感ひします。今週は土曜授業もありますので、子供のみならず大人も心身ともに体調を崩さぬよう、よろしくお願ひします。

【資料】「AさせたいければBと言え」～挨拶を進んでさせる指示～

皆さんは、進んで挨拶をさせたいときに、子供にどのような指示をするだろうか。私（西谷）はいつも、初日の学級指導の際に、翌日の宿題として「明日の朝、30人以上の人に挨拶をしてもらいなさい」という指示を与えてきた。子供たちは最初、キョトンとするが、次第に、自分が挨拶を「してもらおう」ためにはどうしたらいいか考え、「してもらおう」ためには「自分からすることが大事」であることに気付くようになる。同時に、自分から挨拶をしても無視されることがあることを体験し、無視されると不快な思いをすることにも実感する。

子供を動かす原則として「AさせたいければAと指示する」のではなく「AさせたいければBと指示する」ことが大切である。